

患者の用語認知度と専門家の認知度予測



*外来患者は用語を知っている割合。歯科学生と歯科医師は用語が一般的に「知られている」と思っている割合

用語の分かりやすさ

歯科医らと患者にズレ

患者とのインフォームド・コンセントの重要性は浸透しているが、あなたが思う平易な言葉と、実際に患者が理解している言葉はマッチしているだろうか。極力専門用語を使用しないことを教唆されている若手医科大学歯学部5年の峯田武典さんは、医療面接の実習では、学生は診断よりも専門用語を使わないことに心がけがら、社会に普及している用語を調査。「齲蝕」や「スケーリング」など、歯科医師・学生が認知度の高いと感じる用語がほとんど知られていないなど、専門家と社会の間で認識のズレがあることを浮き彫りにした。同研究は8月19日に東京市谷の歯科医師会館で開かれたSCRP日本選抜大会で発表された。

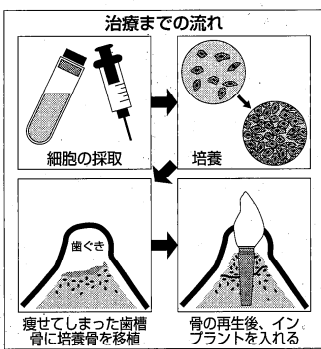
岩手医大 5年生 峯田さんが調査

調査では、岩手医科大にかついで歯科対象クイズ法を用いた。学術科医療センターの外来患者の分布の差を考慮し、16人、歯科医1人、乗検定で検討し、割合も高かったのは、齲蝕病17人、臨床実習中の歯科学生61人を対象に40項目の歯科用語に対するアンケートを実施。患者には用語の認知度を、歯科医師・学生には一般的に知られていると感じる用語の認知度を調査した。

骨再生治療が実用化

今月から提携歯科を募集

TDSホルディングと東京大学医学研究所との共同研究により開発された幹細胞を用いた日本の骨再生治療法が実用化される。同社は、同治療法を導入する提携歯科を6月1日から募集。臨床歯科医にとって身近な言葉でなかった幹細胞を使った再生医療が、ついに本格的に始動する。



治療期間の短縮や身体的負担の軽減につながり、アレルギーの心配がなくなり、感染のリスクが減るなどのメリットがある。上顎だけでなく下顎での骨再生も可能で、インプラント治療の普及やインプラントの安定性を高めることで患者のQOL向上に貢献する。



おじいちゃん8001 お口のタイムトラベル

ハイチローの分身D16。K太郎とD16は、ハイチローがおじいちゃんの入歯で作ったタイムマシンに乗って、冒険に出る。おじいちゃんの口の中に一番最初に生えた永久歯で、今はもうひとりぼっちになってしまったハイチローの依頼を受けて、楽しく、スピーディーな冒険を通して、ハイチローがK太郎に伝えたかったメッセージを理

書籍

明治期に小児啓蒙 巖谷小波著 葉ぬけ節一

口腔衛生 巖谷小波著 葉ぬけ節一

口腔医療国外現状

中国口腔医学の名門 第10回 医学博士 李剛



SCRP日本選抜大会でポスター発表する峯田さん

99.0%、抜歯97.7%などが多い。一方最も低かったのは、TBSKの10.4%、次いで「仮封」10.8%、「アラブ」10.9%。さらに同じ意味の語

歯科界事件簿

- 115万円を不正請求し保険医取り(東京) 関東信越厚生局は8月11日、東京都区の歯科医師Kが診療報酬を不正請求したとして、保険医登録の取り消しを発表した。調べによると平成17~20の間に約115万円を不正請求していた。
- 歯科治療の領収書使用詐欺(滋賀) 滋賀県警大津北署は9月6日、唐揚げ肉販売店から治療代をだまし取った。で、大津市の無職の男を逮捕した。